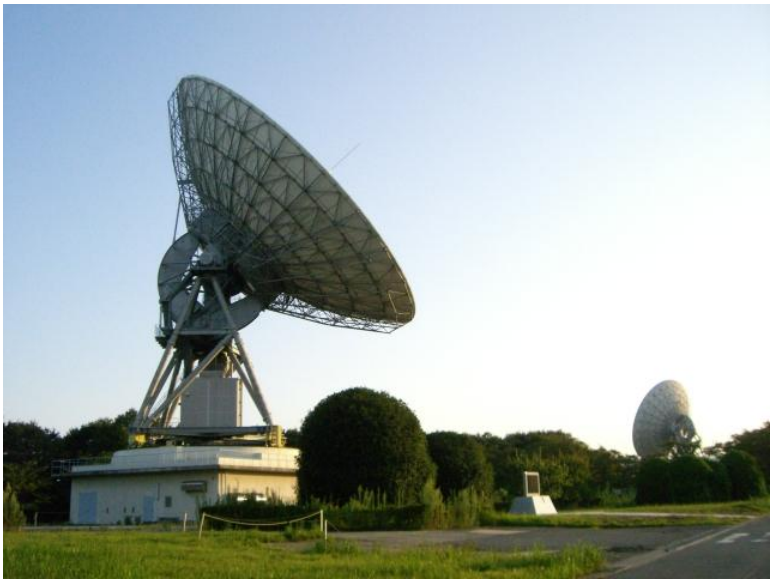
茨　城　大　学　学　報

第294号
平成22年12月～平成23年1月



宇宙電波望遠鏡（宇宙科学教育研究センター）

INDEX

◆　学長年頭挨拶
◆　はやぶさプロジェクトが文科大臣表彰－野口高明教授喜びの声－
◆　水戸キャンパス周辺の地区一斉美化清掃
◆　農学部国際交流会館竣工式を開催
◆　日本原子力研究開発機構大洗研究開発センターとの「第一回研究交流会」開催
◆　工学部、JABEE会長を招き「FD研修会」を開催
◆　タイ国　コンケン大学農学部と学術交流協定を締結
◆　茨城県「ハッスル黄門年賀状コンテスト」に本学学生が入賞

茨城大学総務部総務課広報係
TEL 029-228-8008
FAX 029-228-8019

◆　学長年頭挨拶

平成２３年１月４日
学長　　池田　幸雄

新年、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。さて、今日は２つの事柄について、お話しをしたいと思います。その２つとは「茨城大学の教育改革」と「大学情報公開の義務化」です。

１．　茨城大学の教育改革について

「国立大学の中期目標・中期計画」の「第１期」は、「法人」に馴染む期間であると云われ、その期間は１年前にすでに終了いたしました。平成２２年度から平成２７年度までの「第２期」は、国立大学の充実期であると云われております。「第３期」は、「１８歳人口の減少」や「国家財政の逼迫」などにより、国立大学の整理縮小が始まる期間であると云われております。要するに、第２期の充実期に大学改革を積極的に実行し、その結果が高く評価された大学は、第３期の厳しい時代を切り抜けることができるというわけです。

茨城大学においても、第２期中に積極的に大学教育の改革を実行し、第３期には「教育ブランド大学」として高く評価される大学にならなければなりません。このため、茨城大学は３つの教育改革を推進する必要があると考えております。第１は「教養教育の改革」、第２は「学部教育の改革」、第３は「大学院教育の改革」です。平成２３年は、「茨城大学・教育改革の元年」に当たると考えております。

すでに大学執行部は、教育改革のための「教育シフト」を去年９月に完了しており、今年から全学一丸となって「教育ブランド大学」を目指し全力を尽くしたいと考えております。是非成功させて、茨城大学が「第３期の厳しい時代」を乗り切れる大学になるべく、最大限の努力をする覚悟でございます。全教職員の皆さんには、全面的なご協力をお願いしたいと思います。

２．　大学情報公開の義務化

学校教育法施行規則の改正（平成２２年６月）により、平成２３年度から大学情報の公開が義務化されます。公開義務の対象は広範囲に及びます。具体的には「学生定員、入学者数、在学者数、就職者数、教員数、教員業績、授業科目、授業計画、卒業認定基準、授業料、学生支援など」です。茨城大学は、偏差値以外の諸情報を公開して、「茨城大学の良さ」を受験生に知ってもらう好機として捉え、情報公開の義務化を有効活用して参りたいと考えております。

しかしながら、大学情報公開の義務化は、その公開内容と公開数値の範囲が不明確なため、不用意に公開すると、その内容が誤解されたり、その数値が独り歩きしたりする危険性があります。何をどこまで公開するかは、各大学に委ねられており、大学は十分な準備と慎重な検討を行う必要があります。茨城大学はその検討を早急に開始しなければなりませんが、平成２３年４月は「法的に必要な部分」を中心とした公開に留め、時間をかけて慎重に検討し、有効な情報内容と数値を順次公開して参りたいと考えております。

この大学情報の公開は、「大学の実態」をガラス張りの状態にしますので、学生や受験生のみならず、保護者などのステークホルダーにも理解しやすい内容であり、かつ、「一般社会常識」が通用する状態でなければなりません。特に、受験生等にとって「茨城大学の教育課程や研究内容や大学運営など」が簡明で分かりやすいシステムであることが肝要なので、全教職員に「システムの簡明化」を心がけていただきたいと思います。

はじめに話した「大学教育改革の元年」の件も、また次に話した「大学情報公開の義務化」の件も、茨城大学を一新するほどの重大事であり、ともに教職員全員が一丸となって努力し、それぞれを成就しなければなりません。今年はそれらの改革が開始する年であり、大変重要です。皆さん、是非、頑張っていただきたいと思います。一層の全面的なご協力を心からお願いいたします。

◆　はやぶさプロジェクトが文科大臣表彰
―野口高明教授喜びの声―

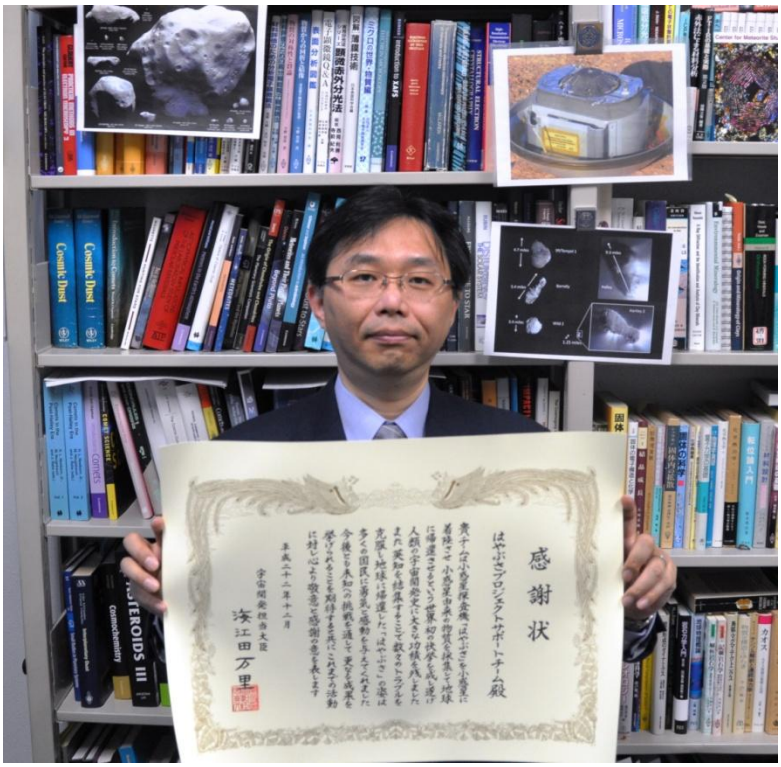
JAXA の小惑星探査機「はやぶさ」は２００３年５月に打ち上げられ、地球と小惑星イトカワとの７年に及ぶ往復飛行を行い、２０１０年６月に地球にサンプルが入っていると期待される容器を持ち帰りました。

理学部の野口高明教授は、容器が日本に持ち帰られた場合に備えて、JAXA 宇宙科学研究所内に設置されたサンプルキュレーション施設において２００８年よりトレーニングを積んできました。開封作業からイトカワにより持ち帰られた微粒子の取り出し・走査型電子顕微鏡観察・分析などに従事。そして、JAXA や他大学のキュレーション担当者とともに、容器内に存在した１，５００個程度の微粒子の分析から、それらの大部分が小惑星イトカワ由来であると判断しました。

そのはやぶさプロジェクトが１２月２日宇宙開発担当大臣及び文部科学大臣から表彰されました。

世界で初めて小惑星から物質を持ち帰った小惑星探査機「はやぶさ」に携わった全１１９機関に対し、政府の宇宙開発戦略本部と文部科学省が表彰したもので、１２月２日表彰式が行われました。

表彰式に出席した野口教授は「大学として表彰されたことは茨城大学のプレゼンスをあげるのに非常に良かったと思います」と喜びを語りました。



研究室にて感謝状を手にする野口教授

◆　水戸キャンパス周辺の地区一斉美化清掃

水戸キャンパス地区で１２月５日に地元周辺自治会・町内会の主催による「地区一斉美化清掃」が実施され、早朝から教職員並びに学生約４０名がボランティアとして参加し、水戸キャンパス周辺の一斉清掃活動を行いました。

この「地区一斉美化清掃」は地区の年末恒例行事となっている活動で、今年度も水戸キャンパス周辺の不燃物や空き缶等の分別収集、落葉及び除草の清掃作業を行い、地区内の美化に努めました。

また、清掃活動を通じて、地域に開かれた大学として地元住民との連帯感を醸成することにも繋がりました。

早朝、地区清掃活動に励む学生たち（上写真）と大学教職員（下写真）

◆　農学部国際交流会館竣工式を開催

１２月６日、阿見キャンパスにて農学部国際交流会館竣工式が行われました。

農学部では、留学生を受け入れる教育交流に加え、平成１６年以降、毎年海外の学術交流協定校とシンポジウムやワークショップを開催してきました。特に、インドネシアの３大学（ボゴール農科大、ガジャマダ大、ウダヤナ大）とは学生の相互短期派遣や新たな共同授業の開講も積極的に行われています。

竣工式には、池田学長をはじめとする学内外の関係者約５０名が出席、池田学長は「グローバル化によりアジアの大学との交流が活発化している。これを機に国際交流を積極的に推し進めていきたい」と挨拶しました。引き続き、川田阿見町国際交流協会長、久野財団法人ロータリー米山記念奨学会総括委員長、羽鳥後援会長から祝辞があり、太田農学部長が会館の概要説明を行いました。その後、関係者が見守る中、池田学長並びに来賓者によるネームプレートの除幕式が行われました。

式典終了後には､記念国際シンポジウムも開催され､国内外の著名人による講演があり、約１００名の参加者は活発な意見交換を交わしました。

除幕式

（左から）　羽鳥後援会長、野口茨城県立医療大学事務局長、松﨑東京医科大学茨城医療センター長、池田学長、川田阿見町国際交流協会長、久野財団法人ロータリー米山記念奨学会総括委員長

◆　日本原子力研究開発機構大洗研究開発センターとの「第一回研究交流会」開催

工学部では１２月１５日、日本原子力研究開発機構大洗研究開発センターとの第一回研究交流会を日立キャンパスで開催し、約８０名の教職員・学生及び研究員らが参加しました。

挨拶において、友田陽工学部長及び河村弘日本原子力研究開発機構大洗研究開発センター副所長が、双方で連携を推進していくことを確認し、交流会に移りました。

はじめに、河村副所長による「大洗研究開発センター概況」、土屋邦彦照射試験炉センター照射試験開発課長による「照射試験炉センター（JMTR）の研究成果」、勝山幸三燃料材料試験部集合体試験課副主任研究員による「燃料材料試験部の研究成果」、梅田寿雄計画管理室技術副主幹による「大洗研究開発センターにおける産学連携の取組みの概要」の研究紹介等が行われました。

次いで、質疑応答及び意見交換では、研究等についての質問が飛び交い、就職に関する情報交換も活発に行われました。

議論を通じて相互理解を深め、第二回研究交流会を開催することを確認し、連携の推進に向けて有意義な研究交流会となりました。

研究交流会に熱心に取り組む教職員ら

◆　工学部、ＪＡＢＥＥ会長を招き「ＦＤ研修会」を開催

工学部では、１２月２４日に日立キャンパスイノベーションルーム会議室で、教員６３名が出席してＦＤ研修会を開催しました。

本研修会は、教育改善委員会の発議によりＪＡＢＥＥ受審に向けた対応並びに本学で導入、活用しているｅ−ラーニングシステムＲＥＮＡＮＤＩ及びＡＬＣを用いた効果的な授業例等の紹介による教育スキルの向上を目的として企画されました。

友田陽工学部長の挨拶のあと、ＪＡＢＥＥ会長の木村孟大学評価・学位授与機構特任教授より「ＪＡＢＥＥ認定制度について」と題し、ＪＡＢＥＥのあゆみ・目的、今後の発展等に関する熱の入った講演がありました。

続いて、ＪＡＢＥＥ基準委員会委員長の牧野光則中央大学理工学部学部長補佐・教授より「ＪＡＢＥＥ　２０１０年度以降の（主な改定点の）対応について」と題し、最新の主な改定点の紹介及び問題を含めた講演がありました。質疑応答では、工学部の全８学科がＪＡＢＥＥ受審済みもしくは準備中であることから、ＪＡＢＥＥの審査方法について多くの質問があり、活発な意見交換が行われました。

また、大学教育センター教員及び工学部教員からＲＥＮＡＮＤＩ利用の事例紹介があり、「ＲＥＮＡＮＤＩを用いた効果的な授業例」と題した講演を行いました。

さらに、ｅ−ラーニングシステムを活用した英語教育の事例として、「学部：実用英語演習Ａ、Ｂ−英語力強化ＴＯＥＩＣスコアアップ−」、「大学院：国際コミュニケーション演習−ＴＯＥＩＣと技術英語−」と題した講演がありました。講演では、統計データが紹介され、現状認識と今後の充実に向けてのさらなる意識向上が図られました。

研修会は３時間以上にわたり、多くの教員が最後まで関心を持って討論し有意義なものとなりました。

ＦＤ研修会の様子

◆　タイ国 コンケン大学農学部と学術交流協定を締結

農学部は、１月１０日にタイ国コンケン大学農学部と共同研究などの学術交流と学生の交換留学を活発化させる学部間協定を締結しました。

締結したのは、両大学の教職員や学生が交流し、共同研究や情報交換を進める「学術交流協定」と、交換留学生の履修科目を両大の単位として認定する「単位互換に基づく学生交流協定」で、コンケン大学で行われた調印式には、両大の関係者ら２０名ほど出席し、太田農学部長とコンケン大学のアナン農学部長が協定書にサインをしました。太田農学部長は挨拶にて、「今後一層、学術交流が広範で活発なものになることを期待している」と述べ、アナン農学部長は「協定は新しい交流の一ページ。両大、両国の人材育成を進めたい」と述べました。その後、両大学の教員の研究発表が行われ、今後の学術交流について熱心に討論を行いました。

両大学は畜産分野を中心として温暖化緩和に向けた共同研究に取り組んでおり、今後の研究推進が期待されます。

学部間学術協定締結を交わしたアナン農学部長（左）と太田農学部長（右）

◆　茨城県「ハッスル黄門年賀状コンテスト」に本学学生が入賞

茨城県が主催した「ハッスル黄門年賀状コンテスト２０１１」に教育学部情報文化課程生活デザインコース３年の音なぎ絢美さんが、最優秀賞の「ハッスル黄門賞」を受賞、１月１９日水戸キャンパスにて、ハッスル黄門様の訪問を受けました。

音なぎさんは、映像作品を作成する授業に取り組む中で、取材していた茨城県職員の方に本コンテストがあることを知らされました。賞品のハッスル黄門のぬいぐるみと副賞の茨城県産品にひかれての応募と言いながらも、愛知県出身の音なぎさんは、茨城大学生として、茨城の知名度が低いのが日頃から気になっていたそうです。

「私自身は名古屋の出身ですが、私の地元では『いばらき』を『いばらぎ』と言い間違えたり、茨城県の観光地や食べ物など魅力がたくさんあるのに、全国的に知られていないことを残念に思っていました。授業での取材を通して、地元の歴史を語れる茨城の人たちにとても好感をもっていましたので、茨城県の良さを自分なりにＰＲできればと思い、「いいモノいっぱいいばらきけん」コメントにかるた風のデザインで、梅まつり、花火、竜神峡、袋田の滝のイラストを入れました。表情も私自身が見てみたかった、ウィンク顔のハッスル黄門様にしてみました」と、作品のポイントを語ってくれました。

構内はちょうど昼休み時間ということもあり、多くの学生に囲まれたハッスル黄門様は、気軽に記念撮影に応じていました。

↑受賞作品を手にする音なぎ絢美さん

←ハッスル黄門様と音なぎさん